

(2) くだもの、米、やさい、しいたけ、はわさびづくりをさかんにする。

養さんがさかんでなくなると、月館町の人々は、養さんになる農作物づくりに取り組むようになりました。それが、くだもの、米、やさい、はわさびなどです。これらの農作物は、今まで使っていたくわ畑を利用したり、新しく土地を開いたりしながら作られました。

○ りんごづくり

今から90年ほど前の大正3年(1914年)ごろから栽培が始められました。
品種は「祝」「旭」「大和錦」というものであったが、現在では品種改良されて、さらにおいしいりんごが作られるようになってきました。

今、市場に出まわっている「フジ」は、「東北7号」という名で、初めのころは少数の農家でしか作られていませんでした。



○ ももづくり

ももは、果物王国福島県を代表するもので、福島市や伊達郡など県北地方で盛んに栽培されています。月館町でも近年その生産が増えてきました。主に、御代田地区で盛んです。

ももは、収穫の時期により、早生、中生、晩生と3種類に分かれます。代表的な品種としては「暁星」(早生種)「白鳳」(中生種)「川中島白桃」(晩生種)などがあります。特に、月館町で生まれた特産品種の「ひろせ」は、甘味があり歯ざわりもよい新種です。月館町では栽培面積約2,350アール、出荷量約350トン(平成13年度)となっています。

